

## 「ダイバーシティーの中での物理教育」シンポジウム（「物理と社会」領域）開催報告

（7 1 期男女共同参画推進委員会シンポジウム担当、鹿野、野尻、高安）

先日行われた年会において、最終日(2016/03/22)午前中に男女共同参画推進委員会・物理教育委員会・Jr.セッション委員会の共催で「ダイバーシティーの中での物理教育」（「物理と社会」領域）を開催した。

今回は男女共同参画委員会が中心となり運営し、物理教育委員会・Jr.セッション委員会には人選などで協力をお願いした。この場を借りて感謝を申し上げる。当日の参加者はのべ40～50名程度で、学会員との交流の場として機能を目的の一つとしていたが、会場が広かったためか少し閑散としたところが反省点である。

他のセッションとの兼ね合いで参加することの出来なかつた会員もいたということで、物理学会のWEB ページに資料の公開を依頼した。既に何名かの方から資料をいただいている。更に物理教育委員会の協力のもと「大学の物理教育誌」に今回のシンポジウムの内容の原稿起こししたものが掲載される予定である。

シンポジウム内容は、藤井会長の物理学会の現状から始まり、高大連携の視点や中等教育の現場など、様々なセクターの中での活動が紹介された。パネルディスカッションでは共通の問題点や個々の問題点を共有したことで、参加者一人一人の教育活動にフィードバック出来たと期待する。

### 【プログラム詳細】

2016年3月22日 BG 会場 22aBG 9:00～12:30

物理と社会シンポジウム

主題：ダイバーシティーの中での物理教育

（男女共同参画推進委員会、物理教育委員会、Jr.セッション委員会 共同企画）

- 1 『はじめに：学会とダイバーシティー』 日本物理学会 藤井保彦
- 2 『科学・技術・人との出会い』 高エネ研 湯浅富久子
- 3 『高校の物理教育におけるダイバシティー』 小倉高校 井上哲秀
- 4 『学習者主体の教育から多様性の尊重へ』 東京学芸大 植松晴子  
休憩 (10:25～10:40)
- 5 『多様性は物理の学びを豊かにする：Women in Physics 2002: 世界物理年：物理オリンピックの経験から』 東京理科大 北原和夫
- 6 『HLAB：身近な多様性と学びの交差点』 HLAB 小林亮介
- 7 パネル討論 高エネ研 野尻美保子（司会）
- 8 『おわりに』 物材機構 板倉明子